

# 本との新たな出会い提供

## 八戸ブックセンターでブックハンティング



八戸工業大は5人の学生が参加。それぞれ選書した本を披露し合った  
＝11月20日、八戸ブックセンター

### 地元学生が学内図書選書

学生自らが、書店で学内の図書館や図書室に置く本を選書するブックハンティング。学生が本に親しめるイベントとして、全国の大学、書店で行われている。八戸ブックセンターでも3年前から開催しており、今年は八戸高専、八戸

学院大、八戸工業大の3校が同センターで実施。一般の書店ではあまり取り扱っていない本がある同センターならではの魅力を生かし、学生と本との新たな出会いの機会を提供している。

(中山瑞希)

2019年、八戸市内の書店でブックハンティングを行っていた八戸高専が同センターでも実施したのを皮切りに、20年に八工大が、そして今年八工大が初参加した。参加したのは主に、学内の図書館運営に携わっている本好きの学生だ。学生は決められた予算の中で、「自分が専攻する分野の専門書」「将来に役立つような本」「友人に薦めたい本」「高価で自分では買えない本」など、さまざまな目的で選書していく。

八戸高専では、『世界史は化学でできている』(左巻健男著、ダイヤモンド社)や『しあわせの哲学』(西研著、NHK出版)など、科学や工学、哲学の本が多く選書された。『小さなパン屋が社会を変える』(菅聖子著、ウェッジ)といった地域・経済に関する書籍が多かったのは、地域経営や幼児保育(短期大学部)などの学科がある八工大。『ほぐらのまちにおいて』(大桃洋祐作、小学館)などの絵本も人気だった。

八工大では、『構造設計プロセス図集』(大野博史著、オーム社)や『日本髪大全』(田中圭子著、誠文堂新光社)など、単価が高いデザイン関係の選書が目立った。

「表紙やタイトルに引かれた」と、専門分野以外の本を選ぶ学生も多く、同センターの音響多信嗣所長は「新しい本との出会いの場になっている」と語る。八工大4年三嶋萌さん(22)は「普段、本と関わりは少なく、今回は本に向き合うきっかけになった。実際に本を手取ることの面白さは、携帯(デジタル)で読むのと全然違う」と充実した様子だった。

同センターでは今後もブックハンティングを引き継いでいく予定。音響多所長は「学生さんは楽しんで勝手に本を選んでくれる。これをきっかけに多くの学生さんに足を運んでもらえたら」と期待を寄せている。